2015/2/20 (Fri.) 増刊　第91号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
― 発行所 ―
日本医師連盟
東京都文京区本駒込2-28-16
〒113-8621
TEL: 03-3947-7815
FAX: 03-3947-2662
E-mail: info01@nichiiren.jp

http://www.nichiiren.jp/　　定価　1年400円（但し日医連負担金に含む）

平成28年7月参議院比例代表(全国区)選挙

ご挨拶

日本医師連盟 推薦
日本医師連盟参与・小児科専門医・認定内科医
自見（じみ） はなこ

平成26年11月25日の日本医師連盟執行委員会におきまして、平成28年7月の参議院比例代表（全国区）選挙の日本医師連盟推薦候補者として全会一致でご推挙いただきましたこと、改めて心から感謝を申し上げます。

私のような女性の勤務医が、日医連の組織を代表する候補として推薦されたことは過去に例はなく、日医連始まって以来のことと伺っており、私自身に課せられた役割は極めて大きいものと認識し、身の引き締まる思いでございます。私は、ただただ切に国民のために日本社会を支えている、この国の医療・介護を守り向上させたい。そのための透明な、私心のない、そして強固な架け橋になりたいと思い、医師がいわゆる開業医・勤務医、さらには女性医師を含め男性・女性の別なく一致団結し、日本の医療・介護を守っていく強固な一枚岩になるべき時期と考え今回の公募に応募させていただきました。

議員秘書・小児科勤務医の経験を生かして

私は昭和51年に母の実家がある、長崎県佐世保市で九州の大学病院の勤務医の家庭に生まれました。小学校2年生の時に父が突然選挙に立候補し国会議員となり、その後は政治と大変関わりの深い家庭環境で育ちました。母方の祖父は第二次大戦の真珠湾攻撃に参戦した空母飛龍の軍医長をしておりましたが、戦後は、奇跡的に生きて佐世保に戻り開業しました。祖父は、戦後に生まれた母には戦争の悲惨さは語らず、常に“お国のために働きなさい”と話して聞かせたそうです。このような家庭環境に育った私は、国際機関で働きたいと思い、筑波大学国際関係学類に入学しましたが、卒業間際になり、やはり人に直接触れて役に立てる職業に就きたい、医師になりたいと思い、両親にかなり無理を言い、東海大学医学部へ学士入学いたしました。将来は地域に密着した小児科・内科の開業医になりたいと思い、初期研修の後は内科後期研修を行い、その後東京大学小児科に入局し、関連病院の虎の門病院小児科で勤務し、現在にいたります。私にとって小児科は神様から与えられた最高の天職であると考えています。日々の外来で子供と接し、親御さんと話す時間に大きな喜びを感じます。医師には外来という窓から見える社会があります。それは、複雑な家庭環境であったり、シングルマザーの経済苦、会社と育児の両立に悩む母親の姿であったりします。正に社会のありのままの姿を見ることができるのも、医師の職業の特徴ではないでしょうか。私は、両親に無理を言って私立の医学部に通わせてもらったことから、専門医の資格を取得した後は両親に恩返しをしようと、数年前より午前は外来をし、午後は政治の仕事を手伝い（秘書）、週1回当直をして過ごしておりました。その後、父の引退に伴い今は小児科の勤務医として診療を続けております。

政治の仕事を手伝う前までは、病院と家を往復するだけの生活で、当時は、“医療・介護は、人々が安心して暮らせる最も大切な社会インフラのひとつで、医師や医療関係職の職業は尊く、社会保障の根幹を身体を張って日々支えており、その処遇についても、与えられて当然のもの”と考えておりました。しかし、いったん病院の外に身を置き、医師会や医療関係団体だけでなく、他の組織団体からも陳情を受ける側の立場となり、政治や行政のお手伝いを通して、多くの関係者のさまざまな意見や主張、利害のぶつかり合いの上に政策決定がなされる現実を目の当たりにいたしました。今ある日本の国民皆保険制度、世界的に見てもトップクラスの医療水準、安心して過ごすことのできる国民の生活は、決して当たり前に存在するものではなく、北里柴三郎初代日本医師会長以来全国の医師会（医師連盟）の先生方のたゆまぬ努力と団結の上に存在しているものだと気づくにいたりました。私共30代、40代の世代も“これからの時代を担っていく”という強い当事者意識と責任感を持ち、英知と経験をかね備えた諸先輩方からご指導を仰ぎながら、地域医療を進めていく必要があると感じております。

支え合う安心の医療・介護を目指して

日本全国、選挙区は大変広うございます。真冬の北海道では流氷が接岸しておりますが、南の沖縄では八重桜が咲き始めています。47都道府県を回るにしても、私一人ではなにひとつなし得ません。都道府県医師会（医師連盟）を核にして一人でも多くの先生方とお会いし、さまざまな地域医療の実情をお伺いするとともに、“支え合う安心の医療・介護の姿”を訴え、医師や医療関係職のみならず患者様にもしっかりと想いが届くような活動を今後展開して参りたいと考えております。

日本の社会保障を根底から支える世界に冠たる国民皆保険制度の堅持と、山積する医療・介護を取り巻く諸課題に医療界全体で取り組み、政治の立場で発信していけるよう、微力ではありますがその一翼を担えたらと考えております。

これからの道のりを皆さまとともに、一歩一歩確実に誠心誠意、そして精一杯の努力を続けていく覚悟でございますので、何卒よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

平成27年3月吉日

自見（じみ）はなこ氏 全国訪問活動を開始

12月22日　記者会見　右から今村聡副委員長、横倉義武委員長、自見はなこ氏、釜萢敏常任執行委員、石川広己参与（日本医師会館にて）

1月22日　福井県医師連盟医政活動研究会

1月22日　石川県医師会の理事会でご挨拶

1月25日　岡山県医師連盟医政活動研究会

2月7日　岩手県医師連盟会議でご挨拶

2月7日　ガンバロー！！（岩手県医師連盟）
女性の会結成か！

あじさいの会

岩手県医師連盟 副委員長　岩動　孝

平成二十七年二月七日（土）、岩手県医師連盟医政活動研究会が開催された。石川育成本県会長の指示で平成十三年に結成された岩手県医師会女性医部会の面々も集まった。それに先立って行われた岩手県医師連盟執行委員会で、日本医師連盟推薦の自見はなこ次期参議院候補予定者の推薦を決定し、集会参加のため来盛していた自見氏に石川委員長から推薦状が手渡された。

石川委員長から「日医初の組織内女性候補である自見さんのための『支援する会』の名称をつけるように」との発案がありいくつかの名前が挙がったが、自見はなこさんの出身地でもある長崎にシーボルトが伝えたといわれ、シーボルト夫人や日本初の女性産科医師になった娘もこの花をこよなく愛したといわれていることから『自見はなこあじさいの会』と命名することになった。

「あじさい」は小さな花が集合して大きな花を形成し、その大きな花が集まって一つの株を形成する。小さな花びらを支援する女性医師にみたて、一つの花が後援会の団結を表し、日本中で大きな花が咲き乱れ、それが集まって自見はなこという大きな株となる。そういうイメージを抱きながら命名した。

岩手発の「あじさいの会」が全国に広まり、自見はなこ参議院議員という大きな大きな「あじさい」になることを願ってやまない。